

喫茶店。店主とカウンターに座る女性客Aと
二人用テーブルに一人で座る女性客B

店主「申し訳ありません。本日はチーズケーキしか残っていません」

A「あ、じゃあそれで」

B「ええ…」

メニューを見る。

店主「他のケーキは売り切れてしまっ」

B「そうですか…あ、じゃあそれをお願いします」

店主、厨房へ

A「人生って、こんな感じですよね」

B「え？」

A「選べると思ってたのに、選べない」

B「それはありますね」

A「私、そういうの嫌いじゃないんです」

B「へえ、私は苦手です」

A「急な予定変更とか？」

B「そうです。ちゃんと決めてから来るタイプなので」

店主がコーヒーを置きながら、

店主「私は、」

二人が見る。

店主「予定通りになった日って、あまり覚えてないんですよ」

少し沈黙。

店主「予定外の日の方が、心が、こう弾みます」

店主は厨房へ戻る。

B「そういう考え方、したことなかったです」

A「私も昔は全部決めてました」

B「変わったんですか？」

A「変わったというより…思い通りにならないことに慣れた」

ケーキが運ばれる。
一口。

B 「……」

A 「どうです？」

B 「思ってたより、おいしい」
A 「ですね」

店主 「その言葉、結構聞きます」

B 「チーズケーキって、あまり選ばなかったんです」

店主 「嫌いでしたか？」

B 「好きじゃないと思い込んでました」

A 「わかります」

B 「本当は何を選ぼうとしてたんですか？」

A 「プリンかな、と」

B 「私はモンブラン」

A 「でも、選ばなくて良くなって、ホッとした自分もいて」
B 「え」

A 「選ばなくて済む理由ができた、自分で選んだわけじゃないって」

B 「確かに、選ぶのって疲れますよね」

A 「でも、その自分はまだ好きじゃなくて」

店主 「プリンとモンブランですね」

B 「人気ないですか？」

店主 「なのかと思ってました、でもちょっと増やします」

B 「わ、すごい。望みを伝えたら、ちょっと変わる」

A 「次は自分で選んでみます」

B 「私はもう一度チーズケーキ頼みたいかも」

店主 「売り切れてなければ」

A 「その時は、ちゃんと迷います」

B 「私も」

店主 「では、迷えるようにしておきます」

三人、笑う。